全修協、国鉄へ陳情
集約臨と団待の設定
九州行き 品川駅

修学旅行における輸送の安全と快適は、不可欠の条件の一つであるが、我が国の現状では、東京、阪神地方における専用電車を除いては、まだこの問題は解決されていない。阪神地方から秋季に九州方面へ行く修学旅行団体が二万八千名もあるのに集約臨時列車が一本も出ていないし、京阪神中学校の修学旅行専用電車の下り便の発駅（品川駅）における混雑や不便は想像以上のものがある。全修協は、この問題を解決するため、左掲の如き陳情書を、十河国鉄総裁や中村国鉄関西支社長や林大阪鉄道管理局長宛に提出すると共に、大阪鉄道管理局へ陳情を行い詳細に説明した。

これに関する陳情は、去る十二月二十六日午前十時半より正午までの間に行われた。全修協からは、山本理事長、岡本近畿ブロツク協議会長、石川大阪府支部長が大阪鉄道管理局を訪れ、営業部長中村四郎氏や関西支社の調査役佐々木健吉氏とそれぞれ面談の上陳情を行つた。

会談はなごやかな間に進められたが、国鉄側としては、秋季九州向けの修旅生徒が、相当数（大体二万）集れば、集約臨を出して計画輸送を行うのを好んではいるものの、学校側に反対があるようだから、全修協として善処してほしい旨を希望した。

品川駅の団体待合所については相当な困難が予想されるが、現地に即して考えてみたいと国鉄側は述べた。これに対して山本理事長は品川駅付近の官有地を利用するため、東京都庁と交渉したいと全修協の方針を表明した。

陳情は時宜をえたもので、今後の処理如何によつては、これが実現の見通しは明るいようだ。

陳情書

本協会は現場教育、教育行政の経験者をもつて組織し新たにカリキュラムの一環に加えられました修学旅行の教育的解明と広くその運営等について全国教育関係者と共に研究し、わが国の修学旅行の向上発展につとめておるものであります。

輸送の安全性の保証とその快適さの確保はなかんずく修学旅行の第一歩でありますが、未だに、その混雑さは解消しておりません。この際国鉄御当局におきましては第二の国民養成の為一層の御努力をいただきたい次第でありますが、さしあたり、左記の二点につきまして、御高配をいただきたく御陳情申上げる次第であります。

記

一、秋季、九州向集約臨時設定について

秋季の九州向修学旅行団体については所謂集約列車の設定がないため、ローカル線を利用、一般客と混乗の現況であり、ために在籍生徒の多数にわたる学校では一団となつて行動することが無理で、止むを得ず分割輸送となるため、統一ある集団指導の成果を充分に揚げることができません。この点、教育的見地より誠に遺憾と考えられます。元来、春季に旅行を実施することを希望する学校が多いのでありますが、本協会としては、春季に比して閑散な秋季への移行方を極力すすめて来た次第であります。その結果、今年秋季（九、十、十一月）に九州方面への実動団体は二八、〇〇〇名（二九七件）にのぼり管内輸送人員の約三〇%を占めて居りこれが輸送の緩和を強く要望される所以であります。秋季集約一列車については昨年（昭和三十三年度）設定されて居りました実績もありますので、特別の御配慮をもつて復活方御考慮相煩わしたく、要望いたします。

二、品川駅待合所設備の造営について

京阪神三都市中学校の修学旅行の輸送緩和と集団指導のため設定されました専用電車の復路（下り）は総て品川駅発となつておりますが、品川駅は人員収容の場所が手狭なため、特に雨のときには非常な混雑であり、学校生徒の引率には監督上不行屈となり勝ちでありますので、多数の人員収容に余裕ある待合所の造営方を要望いたします尚、該品川駅に上記待合所の造営が困難な場合は、下り専用電車の発駅を東京駅と改正していただきたく、何卒御高配賜り、ますよう陳情いたします。

以上

十河国鉄総裁殿
中村国鉄関西支社長殿
林大阪鉄道管理局長殿

旅と文化
発行所
東京都千代田区
神田神保町２～30
財団法人全国
修学旅行研究協会
電（30）0531・2426
編集・発行人
永井熙

本紙の主な内容

①全修協国鉄へ陳情す
②東海三県修旅委員会結成なる
③修学旅行の救世主
④春の東海三県の修旅は専用電車一本で
⑤神奈川県で開催された修旅研究発表会
⑥福井県中学校長の東京コースの実地踏査
⑦入選論文

東海三県修旅委員会結成す
会長は愛知県教育長渡辺氏

愛知、岐阜、三重の各修旅委員会が合同して東海三県修学旅行委員会を作ることになり、去る十二月二十一日名古屋市の愛知県教職員会館三階の会議室において、各県の会長外各委員等二十五名に、全修協本部から山本理事長や永井事務局長等も参加して、ここに結成式を盛大に挙行した。

（上） 東海三県修旅委員会結結式の模様
（下） 結成式に挨拶する全修協山本理事長

当日は午前十時半より準備会を持つた。先づ、愛知修旅委事務局長宮本秀吉氏の司会により、開会の辞を渡辺甚一氏が述べた後、全修協山本理事長が立つて「本日の成果は諸氏の御努力の賜であり、更に今後の御健斗を祈る」旨の挨拶があつて会は進められた。

次いで会則の審議に移り、座長に愛知県教育委員会指導部長平手信之氏を推し、遂条審議を行つた。次に役員及び委員の選出を行い左記の諸氏を決定したのち結成式に移り、規約や役員及委員を承認し会長 愛知県教育委員会

（役員）

東海三縣修学旅行委員会

副会長 岐阜県教育委員会 渡辺 捨雄
副会長 岐阜県教育委員会 花岡 博
副会長 三重県教育委員会 小和田武紀
事務局長 財団法人全国修学旅行研究協会愛知県支部長 宮本 秀吉

（委員）

委員 愛知県教育委員会 渡辺 捨雄
委員 愛知県教育委員会 平手 信之
委員 名古屋市教育委員会 森 義昭
委員 愛知県小中学校長会 渡辺 甚一
委員 愛知県小中学校長会 太田 広文
委員 愛知県小中学校長会 松井 正一
委員 名古屋市立小中学校長会 水野 鈴一
委員 財団法人全国修学旅行研究協会愛知県支部長 愛知修学旅行委員会 事務局長 宮本 秀吉
委員 岐阜県教育委員会 教育長 花岡 博
委員 岐阜県市町村教育委員会連合会 会長 岩本 藤吉
委員 岐阜県小中学校長会 会長 山田 高一
委員 岐阜県中学校長会 会長 武藤 雄俤
委員 岐阜県中学校長会 副会長 松田 充
委員 財団法人全国修学旅行研究協会岐阜県支部長 岐阜県修学旅行研究委員会 事務局長 仲沢倹次郎
委員 津市教育委員会 教育長 佐々木仁三郎
委員 三重県教育委員会 指導課長 浜口佐次郎
委員 三重県中学校長会 会長 木下 四郎
委員 三重県中学校長会 副会長 伊藤 磐
委員 三重県教育団体 代表 藤森 健

（以上二〇名）

主張
修学旅行の救世主

東京と京阪神に誕生した「ひので」「きぼう」の修学旅行専用電車は、輸送の安全と快適さから一躍修学旅行の花形となつた感があるが、この誕生の陰にまたその運営面に非常な労苦を続けて来た修学旅行委員会の存在については一般人からは割合いに知られていない。

国鉄の親心は別として、うるさい教育界の意見を統一し、二億四千万の利用債を引受け、度重なる会合と関係当局への接衝、或は面倒この上もない乗車編成、宿泊の調整やこれに附随する万般の問題解決等、この見えざる労苦に対しわれわれは改めて万腔の感謝を捧げるものである。

この修学旅行委員会の活躍によつて従来から叫ばれて来た修学旅行の各種の弊路は着々と打開されようとしている。謂わばこの出現は修学旅行の救世主ともいうべき存在である。今また東海三県にもこの救世主が現われた。日本の教育の為まことに喜ぶべき現象である。われわれはこの救世主が単に専用電車の走る地区だけでなく、僻遠の地にも、後進の県にももれなく誕生し恵まれない子等の一生の楽しい思い出となる学習が出来るように望んで止まない。

東京、京阪、東海三県の修旅委は確かに画期的な専用電車を走らすという急務から発生して来たものであるが、愈々待望の車が走り、輸送の安全が確保されると、そのもつ組織と団結の力を発揮して修旅全般に横わる各種の問題解決に乗り出して来たがこれは当然の使命であり、まことに好ましい在り方である。全国各地方においてこのような条件が満されない限り修旅委員会の誕生は考えられないだろうか。

新しい教育課程で行事教育に位置づけられた修学旅行の新しい意義を如何に実施面で具現し、好ましい指導をするにはどうしたらよいのか。貴重な物資を投入しての行事教育であれば、能率的運営を考え、小中高のコースがダブらないためのカリキュラムの協定は出来ないだろうか。地域毎に教科書に類するガイドブツクはどんなものだろうか。個々の学校が思い思いで国鉄に輸送を依頼するの煩瑣と不安はいつまれば出来なくとも地域毎の集約臨を走らせる工夫はないだろうか。旅館やバス会社等関係業者に協力を要望することは出来ないだろうか、等々数え上げれば幾多の改善を要すべき問題が山積しているのである。

こうした足もとにころがつている問題を解決しなければ修旅の改善は望まれない。これこそ修旅委を誕生させる最良の条件である。地域毎県毎に民主的な修旅委を早急に設立し、組織された力で一つづつ改善して行くことこそが望ましい在り方だと信ずるものである。

山形縣修旅委員会
縣に予算を要求する

去る昭和三十四年十一月、東北各県に先がけて、「山形県修学旅行研究委員会」が発足し、十二月には、関係業者を集めて、常任委員会終了後、修学旅行に関しての研究座談会を開催した。

同委員会は、昭和三十四年度より県教委で、運営費の一部を公費で負担することとし、その分は、来る二月の 県会において、昭和三十五年度分の負担金として、五万円の予算を組んで知事側に要求することに決つた。これは、同委員会が、強い県民の要望と支持の上に結成されたものとして、今後の活躍が期待される。尚、この外、分担金として、県教組、高教組、特教組、小、中、高等学校長会、地教委、県連合PTA、全修協山形県支部等、関係各団体が、夫々の比率で負担することになつた。

行視

▼ 修学旅行が無事故で安全に終つてホツとする教師の気持はよくわかるが、だから立派な修学旅行であつたと早合点してはいけない。

▼ 見学の解説をバスガイドにまかせつぱなしで、平気でいる引率教師をしばしば見かけるが、こんな教師の神経を疑いたくなる。

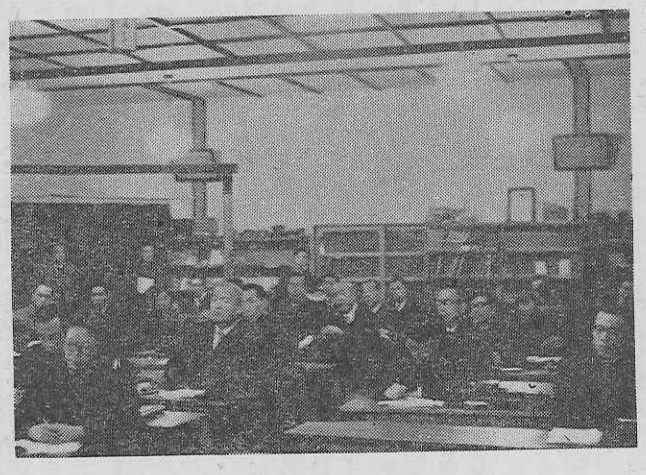
▼ 生徒の担任でない教師が修学旅行に付添う場合には、生徒がどんなに騒いでも、いたづらしても、団体行動を乱しても、知らぬ顔をしていることが多い。これは高校にしばしば見受けられる。こんな付添教師は不必要だ。

神奈川県藤沢市立第一中学校

修旅研究発表会開かる

修旅の諸問題解決に終日熱心な研究討議

修学旅行が校外教育の一環として教科課程に位置づけられようとしている今日、その本質や方法の論議や研究は教師として欠くべからざるものと言えよう。全修協は設立の趣旨に則り、修学旅行の実態調査と共に、これが研究に従事して来た。昭和三十四年度の修旅研究発表会の皮切りとして、関東ブロックの発表会を去る一月二十日（水）午前十時半より、指定校の神奈川県藤沢市立第一中学校（校長大塚良知氏）の図書館において、県内外より来賓、講師、研究発表者及び多数の参加者を得て盛大に挙行された。



研究発表会に参加した神奈川県下の先生たち

先づ開会の辞を全修協神奈川県支部長斉藤正太郎氏が述べたあと、主催者側として初めに大塚良知氏（藤沢市立第一中学校長）が立つて「修学旅行の教育効果をあげつつ生徒が楽しく旅行出来るよう研究することの様な研究発表会を主催された全修協に感謝すると共に、食事や不参加生徒の旅費の点など、まだ数多くの問題が残つている。本日の研究討議によつて、今後の修学旅行が向上改善されることを望む」と述べ、続いて全修協山本理事長（代理永井事務局長）から全修協が我が国の修旅の改善に努力して来たことを述べたあと、「本日の研究発表会は、本県の修旅のみならず、広く我が国の今後の諸問題解決に役立つものと信ずる」と力強い挨拶があつた。

次にPTA会長や市教育委員会より祝辞があつた後、午前十一時より研究発表に移つた。

修学旅行実施上の諸問題
神奈川県立藤沢高等学校教諭　有賀　密夫

一、目的地選定の問題
目的地を選ぶには、生徒の立場を主体として、学校や県や学習効果を考慮しながら行う。コースを設定するには、生徒、父兄、教師や旅行の目標、費用、効果等の関連を考えて、ゆとりのあるものをえらばねばならない。

二、事前指導の問題
先づ事前によく調査して地域をよく認識しておく事が大切である

三、付添教師指導の問題
これが一番旅行の効果をあげるポイントになる。

四、生徒指導の諸問題
教科指導と共に生活指導も必要である。年間計画を立てておくこと。次に現地指導、特に事後の指導が放任されている様だ。

五、実例による修旅の取扱い方
神奈川県の社会見学実施基準をよく検討して、自分の学校の修旅を反省すること。三浦半島を見学する場合には、各地域の特長を常に対比しながら行うことが大切だ

スライドによる奈良、京都の見学の解説
東京都立桜町高等学校教諭　小沼　常治

奈良、京都を見学する場合、教師はバスガイドまかせにしないで、大切な箇所は自分で直接説明すること。若し不可能の場合は、前もつてバス会社にその箇所を説明する様に連絡しておくこと。

昼食休憩の後、県教委保健体育課長補佐馬飼野正治氏の挨拶があり午後の研究発表に移つた。

日光を中心とした修学旅行
藤沢市立第一中学校教諭　伊藤　俊男

本校では日光方面に旅行しているが、生徒の希望調査では13%で87%は関西方面を希望している。特定臨による場合に他の団体との混乗に問題がある。但し長途のバス旅行は無理である。宿泊旅館の選定は慎重にして、非常災害や事故発生の対策を事前によく立てておくこと。

続いて日光修学旅行の映画が上映されたあと、全修協山本調研部長より修学旅行の調査統計に関する説明があつた。

研究発表が終つたので、藤沢市教委永野指導主事が座長になつて研究討議に移つた。参加者より見学地、コース、旅費等につき熱心な質疑応答があり、馬場文部事務官のオランダの国情についての講演の後、全修協中原事務局長補佐の閉会の辞をもつて午後四時過ぎ終了した。

入選第二位第一席（六）

修学旅行を効果的に行う方法論

―中学・高校の修学旅行改善策―

広島県福山誠陽高等学校　**近藤正弘**

全国修学旅行研究協会による全国高校修旅の実態調査によると春の東海道線の利用で混んだ、非常に混んだと回答しているものは全体の五二%に達し普通と答えたものは四八%であり、春の東海道線は修学旅行の場合半数以上が混雑していると推定される。学業の都合や気候の関係で春を希望するものが多いだろうが、それにしても七割近くという多数が殺到してはどうにもなるものではない。特に春の学校の休暇を利用するため、その間に集中する傾向があるが、それは修学旅行を一種の遊びと思う潜在意識があり、ために授業日にはさせたくないという教師の指導性のなさがかかえはしないだろうか。つまり、修学旅行は教科指導の一環ないし延長ということの克服がここでも要請される。教師間で徹底的に論議をつくし、春季集中傾向を排除するため、秋または夏（冬は季節的に最も不適当と思われるので、冬は強行できないと考える）にも実施し、効果のある修学旅行にすべきであると思う。また、各学校が話しあつて旅行計画を調整し、時差をつけて実施するようにすべきことを提案する。

しかし、それのみでは教育効果をあげうるための絶対的条件とはなり得ない。ただ一条件の克服にしかすぎないつまり時期的集中傾向を排除する面はもつているが、とかく東京、大阪、北九州という旅行先の地域的集中傾向をも解消しなければならない。かつて私が勤務している学校で紀州一周を計画したが、残念ながら旅館の設備が不足している、という点で断念したこともあつた。現在の修学旅行は日本のどこへでも行けるという条件はつくられていないと思える。だから、早急に文部省または校長会等が中心になつて、国家または団体の力で修学旅行生宿泊所を、紀州・長野・南四国その他旅行目中傾向を排除するような地方に設け、修学旅行生を収容できるようにすべきである。そうすれば修学旅行が数カ所だけに集中するという傾向は打開できると考えられる。このように時期的集中・地域的集収容力に限度があり、また余りにも旅行期間が長いと旅行気分がのこり、学校生活上好ましくない心理的影響もあらわれると推定される。

では北海道・東北・九州をのぞくとほとんどが四泊五日）の間にあれもこれもと盛り沢山に織り込みたい心理はわかるが、あまりに度が過ぎると疲労を増すばかりで効果はあがらず、かえつて不測の事故を招くことになるので、あくまで教育効果という点を重要視して、浅く広くでなく、深くゆつたりと印象に残る修学旅行にしなければならない。修学旅行に事故はつきものというので、親たちの心配になつているが事故の原因にはいろいろあるが、まず日程の無理ということがあげられる。全国修学旅行研究協会の調査によると高校では日数制限を緩和すべきであるという希望が、かなり出されているが現在の情勢ではこれ以上日数をふやすことは不可能と考える。輸送力、旅館

（上）東京修旅コースの実地踏査に出発する福井県中学校長ら見学団
（下）浅草の羽子板市を見学する修旅生

港湾展望や浅草門前町など

東京修旅コースの実地踏査

福井県下中学校長ら三十余名

修学旅行の東京見学コースについては、かねてより全修協調査研究部において、各教科課程に立脚した新コースを実地踏査の上設定し、既に三年前より愛知県、岐阜県、山梨県等の小、中学校長や修旅担当教諭など総数百数十名に及ぶ実地指導を行い、関係者より感謝されて来た。去る十二月十七日福井県下の教育長、指導主事を始め、中学校長等三十余名の東京見学の実地視察に際して、全修協調研部長が指導を行つた。

門前町や工業地帯の観察

当日の見学コースは、全修協で設定した（B）コースに従つて行われた。出発前本郷の宿舎にて山本調研部長より東京都の概略の説明があつた後、宿舎前よりバス一台に乗つた視察団一行は、東大赤門前から上野公園を経て浅草に着き下車して本堂をはじめ門前町や六区の繁華街を一巡した後、浅草の特長の説明を聞いた。特に一般人の入場不可能な本堂地下室の見学や仲見世、新仲見世、古着市など門前町の三つの変つた形態の比較検討は、見学者の興味を深くしまた当日は歳末の羽子板市が境内で開かれていて、美しい大きな羽子板に眼をうばわれた。

再びバスに乗つた一行は、下町の江東地区を走り、深川の木場を眺めつつ、月島から晴海ふとうの岸壁に着き、豊洲ふとうの東京瓦斯や東京火力発電所を遠望しながら国際見本市あとの円形ドームの横を通つて再び月島へ引返した。

輸出産業の視察

月島から勝どき橋を通つて、東京都民の台所を預る中央卸市場を左側に見ながら、バスは三田通りから一気に品川方面に南下した。やがて品川の御殿山にあるソニー株式会社に到着した。一行は先づ音楽室でトランジスターの説明やステレオの立体音楽を聞いた後、各工場で生産や組立て工程の詳細を見学した。同所で昼食の後、再びバスに乗り芝公園内の世界一の高さを誇る東京タワー塔へ向つた。

すばらしい東京タワーの展望

東京タワーは昭和三十三年十二月二十四日開設した高さ三三三米の鉄塔で、百二十米にある展望台よりの眺めは全くすばらしい。晴天の霧のない日は、東は遠く千葉方面、西は箱根連山から富士山をのぞみ、南は羽田、品川、月島、晴海、豊洲から東京湾に点在する御台場から、遠く房総、三浦半島を望むことができる。東京タワーは停止したオートヂヤイロにもたとえることができて、大都市東京の研究には最適の場所といつても決して過言ではない。ここで約一時間ばかり見学したのち、再びバスに乗つた一行は、都内の中心部へ車を走らせた。

都心部の研究

先づ各国大公使館の密集する麻布地域から虎の門を経て霞関の官庁街を通り国会議事堂を一周した後桜田門、二重橋前、すきや橋、銀座通り、東京駅八重洲口、日本橋神田御茶の水を経て日本学生会館へ着き、会館副支配人の説明を聞いたのち、本郷の宿舎に引上げた

小学館がおくる
新刊辞典の決定版!!

〈中高生用〉〈中学生用〉
新解国語辞典
金田一京助 共編
佐伯 梅友 共編
収載語数六万余
定価 三五〇円

ユニヴァース英和辞典
稲村松雄 梶木隆一 共編
重要見出語一万二千
定価 二〇〇〇円
★昨年度最大採択数を誇る

学習国語新辞典
定価三三〇円

営業所 全国に百余ケ所
修学旅行
のご用命は…
…その技術 経験 組織 サービス …において
全国の諸学校よりご信用をいただいております。
近畿日本ツーリスト
本社・東京都千代田区丸の内（国際観光会館）23―5561

新刊紹介（謄写印刷）

修学旅行調査統計
第2篇 中学校（宮城、神奈川、愛知、兵庫）
B4版、美麗表紙、本文図表共64頁
非売品 但し希望者には実費七〇円にて頒布します（〒一〇円）

修学旅行調査統計
第1篇 高等学校
B4版、美麗表紙、本文図表共40頁
非売品 但し希望者には実費五〇円にて頒布します。（〒四円）

発行所
財団法人 全国修学旅行研究協会
東京都千代田区神田神保町二ノ三〇
電話（30）〇五三一、二四二六
振替口座番号 東京 三六三三七